

嘉麻市教職員の人権意識、人権・同和教育に関する調査（平成31年2月実施）集計
令和元年7月
嘉麻市教育研究所

回答者データ				
○回答者数				
小学校	145名	中学校	93名	合計 238名
○年齢層				
29歳以下	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳以上	未記入
17.3%	16.5%	23.2%	43.0%	0%
○職名等				
校長	教頭	教諭等	常勤講師	未記入
5.1%	5.1%	64.6%	25.3%	0%

問1 「差別」について、どのような考えを持っていますか。					
(ア) 差別は人間として恥ずべき行為である					
そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全く思わない	
91.6%	8.0%	0.4%	0%	0%	
(イ) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ					
そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全く思わない	
2.1%	0.8%	7.2%	24.9%	65.0%	
(ウ) 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である					
そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全く思わない	
89.0%	10.5%	0.4%	0%	0%	
(エ) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い					
そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全く思わない	
0%	0%	4.2%	21.5%	74.3%	
(オ) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ					
そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全く思わない	
4.2%	19.0%	27.4%	26.2%	23.2%	
(カ) 差別を受けてきた人に対しては、行政の支援が必要だ					
そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全く思わない	
56.5%	28.3%	13.9%	1.3%	0%	
(キ) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる					
そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全く思わない	
3.0%	1.7%	17.7%	31.2%	48.1%	

問2 次のことがらについて、人権上問題があると思いますか。

(ア) 家族が不在の時は、介護が必要な高齢者を家から出られないよう身体拘束する

問題がある	やや問題がある	どちらともいえない	あまり問題はない	問題はない
68.6%	19.2%	11.3%	0.4%	0.4%

(イ) 結婚する際には、相手の出身地を調査する

問題がある	やや問題がある	どちらともいえない	あまり問題はない	問題はない
90.4%	5.4%	2.9%	0.8%	0.4%

(ウ) 自治体の体育館を借りようとしたら、車いすバスケットであることを理由に断られた

問題がある	やや問題がある	どちらともいえない	あまり問題はない	問題はない
83.3%	10.5%	4.6%	0%	1.7%

(エ) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う

問題がある	やや問題がある	どちらともいえない	あまり問題はない	問題はない
87.0%	9.6%	3.3%	0%	0%

(オ) 性同一性障がいの方の相談を受けた上司が、本人の了解なしに、その情報を周りの人に知らせる

問題がある	やや問題がある	どちらともいえない	あまり問題はない	問題はない
97.1%	2.9%	0%	0%	0%

(カ) インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む

問題がある	やや問題がある	どちらともいえない	あまり問題はない	問題はない
97.9%	2.1%	0%	0%	0%

(キ) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないので、付き合わないようにする

問題がある	やや問題がある	どちらともいえない	あまり問題はない	問題はない
72.8%	17.2%	9.6%	0.4%	0%

(ク) 温泉施設が、ハンセン病元患者という理由で入浴を断る

問題がある	やや問題がある	どちらともいえない	あまり問題はない	問題はない
90.8%	6.3%	2.9%	0%	0%

問3 人権問題に関する知識や情報を得る手段としてどのようなことが有効だと思いますか。

(ア) 行政（市や県等）が行う研修会

有効である	やや有効である	どちらとも言えない	あまり有効でない	有効でない
66.0%	29.4%	1.7%	2.1%	0.8%

(イ) 研究団体等が行う研修会

有効である	やや有効である	どちらとも言えない	あまり有効でない	有効でない
67.5%	27.4%	2.1%	2.5%	0.4%

(ウ) 当事者団体等が行う地域での自主的な学習会

有効である	やや有効である	どちらとも言えない	あまり有効でない	有効でない
70.9%	23.2%	3.8%	1.7%	0.4%

(エ) 校内研修会

有効である	やや有効である	どちらとも言えない	あまり有効でない	有効でない
73.3%	23.3%	2.5%	0.8%	0%

(オ) 市や県や国からの資料や通知文

有効である	やや有効である	どちらとも言えない	あまり有効でない	有効でない
45.6%	35.4%	11.8%	6.3%	0.8%

(カ) 研究団体等が発行するパンフレットや資料

有効である	やや有効である	どちらとも言えない	あまり有効でない	有効でない
47.5%	37.7%	11.0%	3.0%	0.8%

(キ) 新聞やテレビ、書籍等

有効である	やや有効である	どちらとも言えない	あまり有効でない	有効でない
54.0%	33.8%	9.3%	2.5%	0.4%

(ク) インターネットやホームページの活用

有効である	やや有効である	どちらとも言えない	あまり有効でない	有効でない
38.1%	33.9%	19.9%	5.9%	2.1%

(ケ) 同僚や友人等との会話

有効である	やや有効である	どちらとも言えない	あまり有効でない	有効でない
48.5%	29.5%	16.5%	3.8%	1.7%

問 4 さまざまな人権課題に関連する次のような法律や用語等について、どのような認識ですか。

(ア) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
15.9%	61.1%	21.8%	1.3%

(イ) DV（ドメスティックバイオレンス）

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
41.7%	57.1%	1.3%	0%

(ウ) 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
20.0%	64.6%	14.6%	0.8%

(エ) インターネットによる人権侵害

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
25.4%	68.3%	6.3%	0%

(オ) 自己に関する情報をコントロールする権利

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
6.7%	43.1%	23.4%	26.8%

(カ) 性同一性障がい者や性的指向・性自認に係る、児童生徒への対応

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
22.9%	64.2%	9.6%	3.3%

(キ) 日本におけるハンセン病患者・元患者に対する「隔離政策」

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
25.0%	52.5%	18.8%	3.8%

(ク) 高等学校等就学支援金制度

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
27.3%	56.7%	13.9%	2.1%

(ケ) 部落差別の解消の推進に関する法律

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
31.0%	56.9%	12.1%	0%

(コ) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
23.3%	60.0%	15.8%	0.8%

(サ) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律

人に説明できる	内容はおおよそ知っている	言葉だけは聞いたことがある	知らない
12.5%	35.8%	32.5%	19.2%

問5 差別や人権についてもっとも深く考える契機となったのは、いつですか。

(ア) 小学校や中学校時代	27.3%
(イ) 高校時代	3.7%
(ウ) 大学・短大・専門学校等の時代	7.3%
(エ) 学校等を卒業後から教職につくまで	3.7%
(オ) 教職についた後	57.6%
(カ) その他	0.4%
(キ) ない	0%

問6 差別や人権についてもっとも深く考える契機となったのは、どのような出会いや学びですか。(複数回答)

1 人権課題の当事者（家族や親族を含む）との出会い	56.3%
2 人権問題の解決に取り組む人（職場の同僚や管理職を含む）との出会い	58.0%
3 自分自身が、差別をしたり、受けたりした経験	8.0%
4 家族や知人からの話	16.8%
5 学校の授業	44.1%
6 メディア	8.8%
7 地域の人権問題解決の取組	21.8%
8 職場の人権・同和教育の取組	63.0%
9 その他	2.5%
10 そのような出会いや学びを経験したことはない	0%

問 7 大学・短大・専門学校等において、人権・同和教育に関してどのような学ぶ場がありましたか。(複数回答)

1 学校の講義	73.1%
2 学校のゼミやサークル	4.2%
3 学校が紹介するボランティア等の参加	5.5%
4 学校が主催する研修会	10.9%
5 学校に学ぶ場はなかった	25.2%
6 その他	1.3%
7 大学・短大・専門学校等には在籍経験がない	0%

問 8 同和教育についてもっとも深く考える契機となったのは、いつだと思いますか。

1 小学校や中学校時代	20.6%
2 高校時代	4.9%
3 大学・短大・専門学校等の時代	4.0%
4 学校等を卒業後から教職につくまで	2.8%
5 教職についた後	67.2%
6 その他	0%
7 ない	0%

問 9 同和教育についてもっとも深く考える契機になったのは、どのような出会いや学びですか。(複数回答)

1 人権課題の当事者(家族や親族を含む)との出会い	54.6%
2 人権問題の解決に取り組む人(職場の同僚や管理職を含む)との出会い	55.9%
3 自分自身が、差別をしたり、受けたりした経験	6.3%
4 家族や知人からの話	13.4%
5 学校の授業	40.8%
6 メディア	7.1%
7 地域の人権問題解決の取組	22.3%
8 職場の人権・同和教育の取組	62.2%
9 その他	1.3%
10 そのような出会いや学びを経験したことはない	0%

問 10 同和教育を初めて知った時の気持ちにもっとも近いと思うものはどれか。

1 同和教育を早く解決したいと思った	37.2%
2 自分には関係のない話だと思った	2.5%
3 差別をなくす活動や運動に共感した	27.3%
4 差別の悲惨さだけが強く残った	21.9%
5 よくわからなかった	11.2%

問 1 1 次のさまざまな法律や制度・用語について、どのような認識ですか。

(ア) 明治政府の「解放令」

人に説明できる	内容をおおよそ知っている	言葉だけは知っている	知らない
56.9%	38.5%	4.2%	0.4%

(イ) 水平社宣言

人に説明できる	内容をおおよそ知っている	言葉だけは知っている	知らない
59.8%	35.6%	4.6%	0.0%

(ウ) 同和対策審議会答申

人に説明できる	内容をおおよそ知っている	言葉だけは知っている	知らない
36.4%	44.8%	17.2%	1.7%

(エ) 「全国高等学校統一用紙」(統一応募用紙)の制定など公正な採用選考の取組

人に説明できる	内容をおおよそ知っている	言葉だけは知っている	知らない
45.8%	37.4%	12.6%	4.2%

(オ) 「部落地名総鑑」事件

人に説明できる	内容をおおよそ知っている	言葉だけは知っている	知らない
44.8%	34.3%	11.7%	9.2%

(カ) 福岡県部落差別事象の発生に関する条例

人に説明できる	内容をおおよそ知っている	言葉だけは知っている	知らない
11.3%	43.5%	28.9%	16.3%

(キ) 戸籍・住民票の不正取得を防ぐための「本人通知制度」

人に説明できる	内容をおおよそ知っている	言葉だけは知っている	知らない
7.9%	37.2%	28.5%	26.4%

(ク) 不動産購入等に関わる「土地差別」

人に説明できる	内容をおおよそ知っている	言葉だけは知っている	知らない
14.6%	37.7%	25.9%	21.8%

(ケ) 嘉麻市差別をなくし人権を守る条例

人に説明できる	内容をおおよそ知っている	言葉だけは知っている	知らない
11.7%	34.3%	32.6%	21.3%

問 1 2 次のさまざまな意見について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。

(ア) 部落差別に対して、心から怒りを感じる

そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
75.2%	20.2%	3.4%	0.8%	0.4%

(イ) 同和地区の住民だけに特別な施策を実施したこと自体が差別だ

そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
6.7%	7.6%	20.2%	18.9%	46.6%

(ウ) 部落差別はそっとしておけばなくなるはずだ

そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.3%	1.7%	4.2%	18.5%	74.4%

(エ) 同和問題は一部の人の問題で、自分とは関係ないことだ

そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
0.4%	1.3%	1.7%	16.4%	80.3%

(オ) 同和問題の解決のためには、まず同和地区の人が努力するべきだ

そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.7%	2.1%	5.0%	21.4%	69.7%

(カ) 同和地区の人々の仕事を保障し、教育水準を高め、生活の向上をはかるべきだ

そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
45.4%	26.1%	20.6%	3.8%	4.2%

(キ) 同和問題解決のためには、同和地区の人々が、かたまって住まないようにするべきだ

そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1.7%	2.1%	18.6%	15.2%	62.4%

問 1 3 学校における人権・同和教育を進める上で特に重要だと思う内容は、何ですか。
(3つまで選択)

1 学校における人権・同和教育の推進体制等に関する内容	31.5%
2 児童生徒の関係づくり、学級等の集団づくり、人権が尊重される環境づくり等に関する内容	80.3%
3 人権・同和教育の指導内容等に関する内容	13.0%
4 人権・同和教育の指導方法等に関する内容	23.1%
5 聞く技術、話す技術をはじめ、他者との対話・対応スキルに関する内容	10.5%
6 子どもの意識、子どもが抱える問題などについての現状・背景等に関する内容	29.0%
7 人権尊重の理念や個別的人権課題等に対する教職員自身の知識・理解を深めるための内容	38.2%
8 教職員自身の人権感覚の涵養のための内容	46.2%
9 家庭・地域、関係機関との連携や校種間の連携した内容	20.2%

問 1 4 児童生徒の人権・同和教育に携わるに当たって、現在、あなた自身が特に身に付けなければならないことは何ですか。(3つまで選択)

1 人権に関わる知識を深めること	55.9%
2 人権感覚を養うこと	60.9%
3 自分に身近な人権問題、個別の人権課題等に関する理解を深めること	24.8%
4 人権・同和教育に係る学習の指導技術を高めること	38.7%
5 児童生徒をはじめとした他者との望ましい人間関係を形成するためのスキルを高めること	39.5%
6 人権尊重の観点から、日常の様々な場面における言動等に配慮すること	41.6%
7 家庭訪問等をとおして、個別の人権課題の被差別当事者の願いや思いを聴き、差別の現実や実態を理解すること	26.5%